

## 早稲田大学 政治経済学部 国語 講評

## 〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(現代文2問、古漢1問)
難易度	昨年並み

## 〔大問別講評〕

## (一) 評論文。「ドラマトルギー」について。

出典:木下順二『日本人の思想』。

《本文字数:約 2900 字＝昨年より約 200 字増加。設問数:8＝昨年より1問減少。》

小問	難易度	コメント
問一	易	【空欄補充】設問の説明から容易にわかる。「帰納」は基本単語。
問二	標準	【傍線部理解】フライタークの考えと正反対な戯曲の構造を探す。38行目にある。
問三	やや易	【漢字・読み書き】5「普遍」は基本単語。
問四	標準	【文章整序】順序はニ→ロ→イ→ハ。前段落の対立の理由が述べられている。難しくないのである。
問五	易	【空欄補充】2～3行前の「ドラマトルギー」の定義文が、ヘーゲルの「弁証法」と同様であることは基本である。
問六	標準	【理由説明】同一段落の内容から判断できる。消去法も有効だろう。
問七	標準	【趣旨合致】ロは第3・4段落の内容に合致する。消去法も有効。
問八	標準	【文学史】『夕鶴』が木下順二の代表作であることを知っていたか。

## (二) 評論文。「投機と投資」について。

出典:猪木武徳『自由の思想—市場とデモクラシーは擁護できるか』。

《本文字数:約 3200 字＝昨年より約 300 字増加。設問数:8＝昨年より1問増加。》

小問	難易度	コメント
問九	やや易	【脱落文挿入】「投資」の「生産への貢献が大きい」という特徴を説明している箇所を探す。
問十	やや易	【傍線部理解】同一段落の内容から、「正当防衛」「緊急避難」「正当業務行為」のいずれにも該当しないものを選ぶ。
問十一	やや難	【漢字】「生硬」とは「表現などが未熟でごつごつしている」意。語彙力が問われている。
問十二	標準	【空欄補充】文脈から「賭け」という意味の語が入ると判断できる。7行目にある。
問十三	やや易	【空欄補充】いずれも前後の内容から容易に判断できるだろう。
問十四	やや易	【空欄補充】「投資の定義」は2段落前の第一文にある。
問十五	やや難	【傍線部理解】直後の2文の内容と各選択肢を照合する。ホがやや紛らわしいが、「資本設備の増強」が本文の「企業の将来収益性」に比べて狭い。
問十六	やや難	【空欄補充・記述】「美人投票」が、「実質」すなわち自分の判断を基準とするのではなく、「世評」を基準に行われている、という内容をまとめる。「世評」をどう表現するかがやや難しい。「他人が美人だと思う見込みが高い」あるいは「他人が美人だと評価すると思われる」などと書く必要があるだろう。

(三) 古文・漢文。出典：甲 古文＝後深草院二条『とはずがたり』 乙 漢文＝樂史『楊太真外伝』。  
 《本文字数：古文＝約 2100 字＝昨年より約 600 字増加。漢文＝121 字＝昨年より 55 字増加。  
 設問数(古文・漢文合計)：13＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問十七	標準	【傍線部理解】A＝「かねて」「え…打消」、B＝「行ふ」、H＝「だに」「まし」、にそれぞれ着目する。
問十八	易	【品詞分解】な＝副詞、おはし＝動詞、そ＝助詞、である。基本中の基本。
問十九	標準	【文脈把握】3行後から「今の小法師」の正体が菩薩であることが分かる。菩薩と同義の二文節からなる語句は5行前にある。
問二十	標準	【文脈把握】分け隔てをしたことでつらい目にあっただけから、以降は分け隔てをすることなく生活している、という文脈。
問二十一	標準	【空欄補充】2行前の「主がありさま…来るめり」から判断する。
問二十二	やや難	【文脈把握】イが紛らわしいが後半の「鳥獣を…非情な人物」は「主」のことだと解釈できる。ホは「高潔な」が本文からは読み取りがたいが、消去法で最も傷の少ない選択肢を選ぶとこれになる。
問二十三	標準	【内容合致】ホは最終段落の後半の内容に合致する。
問二十四	易	【文学史】『とはずがたり』は鎌倉後期の女流日記。『徒然草』は鎌倉末期の随筆。
問二十五	やや易	【漢文常識】八月十五日＝中秋、は知っておきたい。
問二十六	やや難	【空欄補充】桂は中国の伝説で月の世界に生えているといわれる木。
問二十七	やや難	【書き下し文】「帝と一緒に登ろうとお願いした」の意。ニは「同」のとおり方が不適。
問二十八	標準	【傍線部理解】直前とのつながりから「滅」の対象が「橋」であることをつかむ。
問二十九	標準	【文脈把握】本文末2文の内容から判断できる。

### 〔総合コメント・今後の指針〕

全体の難易度は昨年並み。高得点勝負になるだろう。

大問一は、「ドラマトゥルギー」についての評論文。難易度は昨年並み。基本・標準レベルの設問ばかりなので高得点をとる必要がある。

大問二は、「投機と投資」についての評論文。難易度は昨年並み。昨年の「ポピュリズム」に続いて、今年も本学部志望者にとって関心が高いであろう論点からの出題である。勝負どころの設問は問十五と問十六。問十六の記述問題は、例年は〈書くべき内容は比較的容易につかめるが、制限字数内にまとめるのが難しい〉という傾向だが、今年は制限字数内にまとめることよりも書くべきポイントをきれなくつかむことが難しかった。

大問三の古文・漢文は、昨年よりやや易化した。古文は、『とはずがたり』。本学部は、例年、全学部の中で最も長い古文を出題する。今年は約 2100 字の長さだ。例年通り解くのに時間のかかる設問もあるので、時間との戦いになっただろう。漢文は、『楊太真外伝』。基本・標準レベルの設問は得点しておきたい。